

令和8年3月第1回 木島平村議会定例会
《第2日目 令和8年3月5日 午前10時00分 開議》

議長（勝山 正）

おはようございます。

（全出席者「おはようございます。」）

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の順序については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

4番、山本隆樹議員。

（「はい、議長。4番。」の声あり）

（4番 山本隆樹 議員 登壇）

1. 今後の「道の駅ファームス木島平」の運営は

4番 山本隆樹 議員

おはようございます。通告に基づき、2項目を質問させていただきます。

道の駅ファームス木島平が開業して11年目に入っています。昨年3月、道の駅ファームス木島平再整備計画の村民説明会がありました。その後、様々な意見が寄せられ、計画の見直し、内容等を検討中とのことです。ここで今後の道の駅ファームス木島平の運営について質問していきたいと思っております。

1と2を併せてお願いしたいと思います。

1番目、事業費として借り入れた過疎債は、償還終了しているのですか。

2番目、スケジュールを含めた今後の進め方をお聞きしたい。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

私の方からは、「事業費として借り入れた過疎債のこと」について答弁させていただきます。

まず、道の駅の建設などにも活用しております過疎対策事業債ですが、この過疎債については、借入から12年をかけまして、9月と3月の年2回償還金の支払いを行っております。

道の駅に係る分につきましては、大きなものとして、平成24年度の用地取得に5,230万円、平成26年度の本体工事に1億5,000万円を借り入れました。用地取得分については既に償還が完了しており、本体工事分につきましては令和9年3月に償還を終える予定となっております。

また、建設後、平成31年にさきの整備計画では、B棟としました交流ホールの空調工事に1,100万円、令和2年度に南側の出入口自動ドア設置工事に230万円、令和4年度の交流ホール屋根塗装工事に290万円を借入しており、それぞれ令和14年、15年、17年の3月に償還期限を迎えます。

元利償還金は、令和8年3月支払予定分が704万6,777円となっております。未償還元金は、令和8年3月末の時点で2,174万2千円の見込みとなっております。

議長（勝山 正）

日基村長。

村長（日基正博）

それでは、「スケジュールを含めた今後の進め方」ということではありますが、私の方から答弁をさせ

ていただきます。

令和7年3月に公表しました道の駅再整備計画に対しましては、村民の皆さんから多くのご意見が寄せられました。その結果、スケジュールを含めた計画内容を全面的に見直していくことにしました。現在は、次の3つの案を中心に比較検討を行っております。

1つ目が全施設を取り壊すケース。

2つ目が老朽化したマルシェホール、さきの整備計画で西側をA棟としましたが、これを取り壊し、既存のそば処、直売所、カフェがある交流ホール、さきの整備計画でB棟とした東部分を残すケース。

3つ目がB棟を残しつつ農産物直売機能などを充実させ、小規模な施設を整備するケース。

これら3案について経費や費用対効果を試算するとともに、今後の進め方の検討をしており、今議会中を目途に検討内容をお示しする予定であります。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

返済終了までにまだかなり残っているということと、解体すれば村の負担になるということと、再整備計画をしていけば、また過疎債の活用も考えられるということで、これからの考え方で大きな進展がどういふふうに進んでいくかは、検討していく材料になると思います。

その中で、改めて道の駅ファームス木島平の現状を伺っていきたいと思います。

3点目、売店、カフェ、食堂の今年度の現時点での売上額、そしてまた、その課題をお聞きしたい。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

道の駅の売上げにつきましては、売店、カフェ、食堂を合計しまして、令和7年度につきまして、この1月までの売上げで4,523万円であります。前年同月比で132.2%となっております。

課題としましては、直売所部分の照明の暗さ、売り場面積の不足。食堂では、来客数が多い場合に客席の不足などが挙げられております。施設全体としましては、マルシェホールの老朽化に伴います冬季の閉鎖による使用制限、また、同ホールの雨漏りでありますとか、冷暖房がないことなどが従前からの課題として把握しているものであります。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

売上げ的には130%ということで少し貢献されてはいるんですが、この前の市場調査では、潜在的な需要予測は1億5,000万から2億あるということで、今までの経験とこれからの運営の事を考えると、この市場予測というのは1億5,000万ぐらいはやっていけるような、運営次第なんですけど、見込みはどうなんでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

再整備計画でお示ししました売上予測につきましては、再整備をしたうえでのものになりますので、現状の施設での売上げとは比較にならないと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

再整備すればこのぐらいの予測ということで、今の現時点ではわからないということなんですけど、これからちょっとイベント等の話をしていくんですけど、1億5,000万から2億というのは、やり方次第でできると感じていますか。

議長（勝山 正）

それは、課題という解釈でよろしいでしょうか。

4番 山本隆樹 議員

いいえ。そういうふうに使われているかどうか、ちょっとお聞きしたいと思います。こうすればもしかしたらできる、やり方次第ということなのか、そのぐらいの需要はあるというふうに理解しているのか、そこをお聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

先ほど申し上げました再整備計画での売上予測目標につきましては、再整備をしたうえでの金額になりますので、あの計画自体が今見直しをするということでもありますので、その計画の数字ができるかどうかということをお問われたと思うんですが、私の方では、そこをできる、できないというのは答弁できないので、ご理解いただければと思います。

現状の施設で昨年比132%ということで、現場では売上げを上げるように頑張らせていただいているという把握はしておりますが、当時の計画の売上げができるかどうかというところは先ほど申し上げたとおりでありますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では、4番目のイベントによるにぎわいの現状をお聞きします。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

「道の駅でのイベントの賑わいについて」のご質問に答弁をさせていただきます。

令和7年度は、今日まで13回のイベントを実施させていただきました。ゴールデンウィークでの屋台出店や除雪機械の乗車体験といったものを皮切りに、主にファミリー層を対象としたイベントを定期的に開催してまいりました。村民の皆さんだけでなく、近隣市町村からも大勢のお客様にご来場い

いただきました。多いときでは700人来場があるイベントもいくつかあり、駐車場も満車になるなど盛況となり、地域の賑わいの場をつくることができたかなというふうにも思っております。

イベントを定期的で開催することで、リピーターのお客様も増え、先ほど申しあげました道の駅の売上増にも影響しているかなと思っております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

道の駅としては立地が悪いというふうによく言われています。しかし、村の玄関口でもあり、他市町村との繋がり場の場としても有効に生かしているというふうに捉えました。

イベントということが地域の繋がりを増やし、地域共生社会の実現にこれからも繋がっていくいい場所だと思っております。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

前段話がありましたとおり、立地的にいろいろな課題があるということではありますが、先ほど室長が申しあげましたとおり、イベントそれからまた施設の内容等をしっかり充実させることによって、道の駅としての機能をこれからも十分発揮していくことができる、また、そのことが産業振興や活性化に繋がる施設にすることができると考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では、5番目の現在、保育園、小中学校、下高井農林高校、社協や各種団体、有志の活動など、地域のふれあいの場、繋がり場の場として活用しているその状況を伺いたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

地域連携コーディネーターの活動の場として道の駅も活用していただいております。

村内保育園、小学校の児童の皆さんを対象にしたイチゴ狩りなどの農業体験、また、下高井農林高校や村老人クラブ連合会の皆さんと連携し、年10回程度こういった催しを実施しています。また、下高井農林高校と村の農業振興公社の連携によりまして、農林高校そば部による実演販売や、そば処での提供など定期的開催しております。このほか、中学校の未来塾の活動の場や農林高校の農林市の開催など道の駅の活用を通じて、議員のおっしゃいました地域のふれあいの場、繋がり場としての機能を果たしているかというふうにあります。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

本当に現在有効に使って地域のコーディネーター等を入れて、その一つの子供たちへの体験とか、教育にも繋がっているんです。本当に良い場所として利用していただいているというふうに理解して、今後とも進めていっていただきたいと思います。

それに関連するんですが、6番目として、人口減少、少子高齢化の中、子供を真ん中に置いた多世代交流の居場所が求められています。全天候型のアソビバ、ツクルバ(体験)、ライブラリ、子供が主体的に取り組める環境の場の提供というのは、アンケート等でも寄せられていたり、大きな子供を真ん中に置いた多世代交流の居場所になると思っておりますが、その点について伺いたいと思います。

議長(勝山 正)

日墓村長。

村長(日墓正博)

地域連携コーディネーターによる先ほどの交流活動のための場の提供のほか、施設内には2か所の室内キッズスペース、屋外に木製遊具があるウッドチップこども広場を整備し、来場者からは大変好評をいただいております。

ご質問の「全天候型の遊びや体験、学びの機能など」につきましては、再整備における導入機能の一つの方向性として考えられるものでありますが、施設整備には相応の費用負担が伴うと、そんなことから村の財政状況を踏まえながら、議員各位それからまた村民の皆様のご意見を伺いながら、慎重に検討する必要があると考えております。

議長(勝山 正)

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

次の質問にも関わるんですが、今、こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか社会」ということを言われているんですね。どこの市町村の人口減少、少子高齢化の中で、子供たちへの投資をし、子供たちが自らの生き方を創造していける取組をしようという形で動いています。

ファームス木島平で遊べる施設の中で、多世代との交流で育まれる場所となり、弱まってきた地域の教育力の居場所とも活用できるのではないかと考えています。本当にそういう形で、「こどもまんなか社会」の中の一つの居場所として、しっかり考えていくことが大切ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

議長(勝山 正)

日墓村長。

村長(日墓正博)

ご質問のとおり、子供たちに魅力あるというか、子供たちが生き生きと楽しめる、そういうスペースの確保というのが大事だと思います。

昨年春の説明会等持ちました案の中でも、そのようなことを取り込んだわけではありますが、やはり将来的な財政的な不安とかそういうような心配の声があるということで、当面はすぐにではなく、少しずつそういうような機能を充実していく、そのような形での整備をしてはどうかと考えております。

議長(勝山 正)

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では、7番目の件ですが、これが一番運営に関わる大きなことだと思うんですが、道の駅ファームス木島平の運営ですが、これは収益施設と公益施設という形で、行政主導でもなく、民間任せでもない、本当に真の意味の「共創の場づくり」これが木島平モデルを作り上げていく大きな鍵だと思うんです。そこで、運営を地域の実情に関わっている農業振興公社、観光振興局の合同でできないものなのか。それが木島平モデルという形で、存続可能な取組にも繋がっていくのではないかと考えているんですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

現在、道の駅の運営体制につきましては、農業振興公社を中心に運営をしておりますが、観光振興局も含めた関係組織との連携強化は重要であると認識をしております。ご提案にありましたような「合同による運営体制」につきましては、農業振興と観光振興を一体的に進める観点から、有効な手段の一つであるというふうに考えております。

ただ、道の駅の役割や機能、持続可能な運営のあり方を整備する中で、今後、運営主体や体制の見直しも含め、検討を進めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

本当に一つの大きな施設として、ビジネス、サービス、福祉の拠点だと思うんです。今言われたように、観光振興局というのは、そういう点では、できればDMOという形で設立していくこれからの前提で考えていってもらえればいいなど、今の観光の実務、PRというだけではなくて、経営、戦略まで含めた観光振興局のDMOを、やはりそういうために作られてきた大きな組織だと思うんです。

これからの観光振興局のあり方とか、農業振興公社も特に飲食の提供とか農産物・特産品の販売、これからの遊休荒廃地の対策、高齢者との関わり、子供との教育の中で本当に大きな力を発揮した、大きな村の大切な居場所となると自分は思っています。

その点もう一度、村長に実現に向けてやっていければと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

現時点で私もそのように思っておりますが、実際にはそれぞれ現在は違う組織でありますので、それぞれの事業の中身、それから組織体制等も含め、これから検討してまいりたいと考えております。

2. 木島平型教育とは

4番 山本隆樹 議員

では、2項目目の木島平村型教育ということで質問させていただきます。

木島平村の教育は、過去から「往郷教育」等で高く評価され、地域と一体となった独自のモデル、

「木島平型教育」として現在に至っています。教育こそ希望の源であり、人口減少、少子高齢化により、教育の需要が更に高まっています。令和7年度から木島平村教育大綱も刷新され、「安心して子育てができ、誰もが学び続けられる村～みんなで育む 子供たちの未来～」としています。改めて質問させていただきます。

1つ目、木島平型教育の特徴は。なぜ注目されてきたのか。認識を新たにするためにも質問とさせていただきます。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

「木島平型教育の特徴は」ということ、それから「注目されてきたか」ということをご質問いただきました。

平成22年に木島平小学校が誕生したことをきっかけに、本村では21世紀型の教育、教師による一斉学習から脱却して、子供たちが主体的で協働的で深い学びに繋がる教育、21世紀型の改革をスタートさせました。新しい教育スタイルである木島平型教育として現在進めてきております。

木島平型教育の特徴は、1つ目として協働する学び、2つ目として小中一貫型教育、3つ目としてコミュニティ・スクール、この3つの柱から成り立っています。これらの取組を一体的に進めることで、教育の質の向上、子供たちが生涯にわたって学び続けるための基礎力の育成を目指しています。

1つ目の柱ですが、「協働的な学び」では、東京大学大学院との教育・研究連携協定のもとで授業改善が行われ、翌年、平成23年には木島平中学校でも導入されました。授業で4人グループにわかれた子供たちが互いに意見を出し合いながら、課題解決に向けて学習を進めることが特徴です。

2つ目の柱「小中一貫型教育」では、小中学校の施設が分離型であっても、教育理念や教育目標を小中学校で統一して、義務教育9年間を「4・3・2」年生に区分し、9年間を通した学習カリキュラムを作成し、これに基づいて教育活動を行っていることが特徴です。

3つ目の柱として、このような教育活動を支える仕組みとして、平成26年度に「文部科学省のコミュニティ・スクール」を導入し、村民の学校理解と協働を深め、学校支援を形にする仕組みが特徴となっています。

以上、説明しました内容については、本年度、教育委員会のホームページ「ふるさとの子供を育む木島平型教育の推進」として掲載していますので、ご理解いただきたいと思います。

次に、なぜ注目されてきたかということですが、平成22年当初から本村で進める3つの柱「協働的な学び」「小中一貫型教育」「コミュニティ・スクール」この3つの柱を一体的に進めていることと、且つ、その改革を木島平村教育委員会が主導している、それが新たな教育スタイルとして構築している市町村は全国に極めて少なく、先進的な教育改革であったと記憶しています。

以上のことから、全国各地から本村の「木島平型教育」に学ぼうと多くの教育委員会の方々や、先生方が国内外から学校訪問されるようになりました。現在も小中学校の授業公開については、全国発信していますので、現在も多くの参加者が訪れているという状況です。

以上です。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

2点目、改正に伴い、特に力を注いでいる取組は何でしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

令和7年4月に策定いたしました木島平村教育大綱及び教育振興基本計画（前期）ですが、具体的な政策を掲げています。特に力を注ぐということで、次の4点を大事にしていきたいと思っています。

この4点については、新規に立ち上がった事業であったり、発展的に取り組む内容であることをご理解ください。

1つ目として、安心して子育てができるように、誰もが気軽に相談できる機関として、こども家庭センターを令和8年4月より軌道に乗せていくこと。

2つ目として、学習においては、各学年においては基礎・基本の定着と、探究的な学習課題に対して問い続けられる子供を育てること。

3つ目として、本村の自然や産業、歴史や文化、地域住民に学ぶ「ふるさと学習」を推進し、ふるさとを心に刻む「体験的な学習」の充実を図っていくこと。

4つ目として、中学校で2年前から始めました「平和学習」、令和8年度の修学旅行で初めて広島市を訪問します。人権同和教育とセットで、平和教育を軌道に乗せていくこと。

以上の取組を、令和8年度において、特に大事にしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

では3点目、木島平型教育を進める中で、課題と感じていることは何でしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

「課題として感じていること」ということでお答えしたいと思います。

先生方や地域の方々に本村で行っている木島平型教育を知っていただき、支援していただきたいとの思いで、教育委員会のホームページに木島平型教育の推進について掲載しています。しかし、課題として感じることは、木島平村に赴任していただいた先生方は、本村の教育を理解し、本当に子供たちと一緒に学んでいただくことに尽きるんですが、先生方は3年、4年すると異動となります。毎年組織が変わる中で、先生方が本当に個性を発揮しながら、本村の教育を持続・発展させていただくところに課題があります。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

課題の中で、今、家庭も共働きで余裕がなくなっている。それと地域の教育力という形で、家庭と学校の間を深める役割をしている地域の教育力がちょっと弱まっているという問題が、学校への負担となって学力面に影響を与えているんじゃないかというようなことを、ちょっとお聞きしたことあるんですが、その点についてはどうでしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

子供たちの一日の学校の時間を見ますと、学校にいる時間、それから放課後子ども教室にいる時間はとても長いです。家庭に帰って自分の活動する、家庭の中での役割を果たす。学習をするという時間が限られていると感じています。いかにそういう時間を、家庭と協力して有効に子供たちのために使っていくか、使えるかということが課題になってくるのかなと思っています。それと学力とは切り離して考えていきたいと思っています。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

こども家庭センターということで、学校への負担もなくするためにも、家庭を支える大きな仕組みになってきているということで、4番目の質問をさせていただきます。

家庭状況の変化、地域コミュニティの減少、また、多様性を認め合う教育の中で、従来とは異なる問題点も増えてきています。気軽に相談できる場所が求められている。こども家庭センターでは、どのように対応されるのでしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

令和8年4月に開設いたします「木島平村こども家庭センター」は、子育て支援課と民生課が連携し、母子保健を含め、0歳から18歳までの子供たちを対象にしています。

具体的には妊産婦・母子保健に関する相談、子育て世帯・児童福祉に関する相談等に担当職員が対応していくようになります。

実施にあたっては、ホームページで「妊娠から出産まで」「乳幼児から幼児期まで」「小学生から高校生まで」そういう事業を紹介したり、「子育ての悩み相談コーナー」や「子育てに関する支援事業」も紹介していきます。また、電話で相談をいただいた際には、支援会議の参加、必要な場合には家庭に出向いての支援も行うとしています。

このような取組を展開することで、利用者さんの困り感に対応できるような行政サービスをしていこうと、現在開設準備を進めている最中です。

以上です。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

これから子供と家庭の総合相談窓口というふうに理解しています。家庭だけじゃなくて、学校だけにしない仕組みとして設立し、家庭を支え、結果、学校の負担軽減にも繋がる取組だというふうに理解しました。本当にこれをうまく機能させるには、家庭・学校、そういう地域の連携が不可欠で、本当に気軽に相談できる場所として求められているんですが、そういう連携、家庭・学校・地域の連携の不可欠を、どういう形でうまく家庭センターを組織として進めていくのか、その辺を伺いたいと思

います。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

これまでも担当の職員がそれぞれ対応してきました。これからも、先ほど申しましたように、担当職員を配置して、なおかつ、村民の方には「こういう活動があります」「こういう相談を受けられます」「気軽に相談できる体制です」というチラシ等も配布して、利用に繋げていきたいと思っています。

議長（勝山 正）

山本議員。

4番 山本隆樹 議員

本当に気軽に相談できるということが、これから大きな取組だと思えます。保護者会への説明で困っているから来るのではなくて、困りそうなときに関われる予防的な相談とか、支援じゃなくて一緒に伴走していくという場所に取り組んでいていただきたいなと思います。ちょっと言いづらいとか、相談しづらいとか言うんじゃないで、気軽に相談できる家庭センターになっていただきたいと思っています。

次の質問に入らせていただきますが、地域そのものが教室、まさに今まで質問した中で、ファームス木島平を子供を真ん中に置いた施設にならないかとか、今の木島平型教育の中で、本当に気軽に相談できる家庭センターができて、本当に地域そのものが教室なんだというような、やっぱり木島平って本当にそういう点ではよくできているという村にしたいと思って質問させていただきます。

5番目なんですが、「地域そのものが教室」というふうに思います。村長の思いをお願いいたします。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

私の方から答弁させていただきます。

議員のご意見と私も同感です。学校内、そして学級・机上学習では、架空世界で想像したり、体験を伴わない学習になりがちです。そのような学習ではなく保育園から小中学校と体験的な学習の中で、気付いたり、味わったり、実感したりする学習が、子供たちの生きる力に蓄えられていくと思っています。そういう意味でもふるさと学習は大事な取組の一つです。

先ほどは特徴ある取組として、コミュニティ・スクールの活動についてお話いたしました。コミュニティ・スクールは、学校を助けるという意味合いがあります。ただ、本村では、これまで学校が地域の中にあるという「スクールコミュニティ」という理念のもとに取り組んでおります。ですので、9年間を見据えた「ふるさと学習」等を展開していくことは大変重要であると認識しています。それが「地域そのものが教室」というふうに繋がっていくと認識しています。

以上です。

議長（勝山 正）

以上で、山本隆樹 議員の質問は終わります。

（終了 午前10時41分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は10時50分とします。

（休憩 午前10時41分）